

◆◇◆◇◆ 第3章 教養総合科目 ◆◇◆◇◆

I. 教養総合科目の目的

現代世界は、グローバル化の進展という均質化を指向する世界と、一方で文化の多様化・複雑化を指向する世界とが重なって存在している。このような世界で、人として生きていくための知識と技能を身につけ、豊かな人間性を養うため、本学は教養総合科目を開設している。ここでは学問の基本的な知識を獲得するだけに留まらず、様々な場面に応じた知識の活用能力や自己表現能力を高め、多様な視点から物事をとらえていく姿勢を培うことを目指している。このことは本学の理念・目的である、世界に開かれた日本文化の創造と形成に総合的に寄与し、日本文化を世界に発信できる有用な人材を、育成することを可能にするものである。これらを達成するため、教養総合科目では神道科目、國學院科目、日本語科目、必修・選択必修外国語科目、スポーツ・身体文化科目からなる「基礎科目群」、テーマ別講義科目、総合講座科目、教養総合演習科目、情報処理科目、キャリア形成支援科目、選択外国語科目、Japan Studies からなる「人間総合科目群」、留学生科目、単位認定科目が設定されている。

II. 教養総合科目の構成と履修方法

【教養総合科目の構成】

科目区分		必修単位	該当頁
基礎科目群	神道科目	2	29 頁
	國學院科目		29 頁
	日本語科目		29 頁
	必修・選択必修外国語科目*	8	30 頁
	スポーツ・身体文化科目	2	31 頁
	導入科目	2	31 頁
人間総合科目群	テーマ別講義科目		32 頁
	総合講座科目	2	32 頁
	教養総合演習科目		32 頁
	情報処理科目		33 頁
	キャリア形成支援科目		33 頁
	選択外国語科目		34 頁
	Japan Studies		35 頁
留学生科目*			/
単位認定科目			36 頁
合 計		26 単位以上	

上表内の数値は、科目区分ごとに指定している「必修科目」の卒業要件単位数を表している。卒業要件科目として指定される「必修科目」は、該当頁をよく読んで履修すること。

※ 「選択必修外国語科目」及び「留学生科目」については、卒業要件科目として指定されていないため、本「履修要綱」には記載がない。

Ⅲ. 教養総合科目の具体的内容と履修上の注意

【基礎科目群】

基礎科目群は、日本文化の根底にある神道を理解する神道科目、日本文化体験型授業の國學院科目、人間を人間たらしめている言語を習得する日本語科目及び必修・選択必修外国語科目、自分自身のからだの理解とスポーツ技能を高めるスポーツ・身体文化科目から構成されている。この科目群は学部・学科に関係なく、國學院大學で学んでいく学生にとって最も基本となる科目群である。

1. 神道科目

國學院大學の建学の精神に触れ、日本固有の文化や国柄の根底にある神道を理解し、さらには現代社会の解明や大学での個々の学修に臨む基礎を身につけることを目的としている。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
神道と文化	1	2	半期	1科目2単位必修*	

※ 1科目2単位を超えて履修することはできない。

2. 國學院科目

國學院大學の「建学の精神」に基づき、わが国の伝統文化とその精神や、本学で進められている学際的な研究の成果を学ぶことができる日本文化体験型授業で構成されている。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
日本の基層文化	1	2	半期	選択	()内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可*
國學院の学問	1	2	半期	選択	
ことのはの文化	1	2	半期	選択	
和の心・技・体	1	2	半期	選択	

※ 國學院科目は「日本の基層文化（神道と日本人の信仰）」「日本の基層文化（女性祭祀の伝統）」のように () 内でテーマが示される。

3. 日本語科目

現代の日本において生きるために必要な日本語（国語）能力を備えるため、基礎的な日本語能力を養い、資料の調べ方、論文の読み方、レジュメの書き方、口頭発表の仕方、レポート・論文の書き方、さらには、文章表現など日本語そのものについて学ぶことを目的としている。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
基礎日本語	1**1・2	2	半期	選択	()内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可**3 また、一部のテーマは重複履修可**4

※1 「基礎日本語（リテラシー）」は1年次後期のみ履修することができる。ただし、「入学時学力診断テスト（国語）」の得点が一定の基準に満たなかった場合は、1年次前期の履修が義務づけられる。

※2 上記以外の「基礎日本語」は、1・2年次のみ履修することができる。

※3 日本語科目は「基礎日本語（リテラシー）」「基礎日本語（文章表現）」のように () 内でテーマが示される。

※4 「基礎日本語（リテラシー）」「基礎日本語（文章表現）」は、()内のテーマが同一であっても重複して履修することはできるが、同一学期に登録できるのはそれぞれ1科目とする。

4. 必修・選択必修外国語科目

人間にとって必須のコミュニケーションツールである言語として、日本語以外の言語を習得することで、海外における情報収集能力と、海外へ向けての情報発信能力を高めるとともに、私たちを取り巻く世界と日本とを客観的に観察する視点の獲得を目的としている。

「必修外国語」と「選択必修外国語」の二種類があり、人間開発学部は「必修外国語」が卒業要件科目として指定されているため、下記に従い受講すること。なお、「選択必修外国語」は卒業要件科目として指定されていない。

4-1. 必修外国語

1・2年次に配置された必修外国語を修得しなければならない。また、「English I・II」の（）内の略称が示す内容は、「R&W」は「Reading & Writing」、「L&W」は「Listening & Writing」、「L&S」は「Listening & Speaking」である。

▼初等教育学科・子ども支援学科

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
First Year English I	1	1	前期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
First Year English II	1	1	後期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English I (R&W)	1	1	半期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English I (L&W)	1	1	半期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English II (R&W)	2	1	半期	2科目2単位必修 ^{*1}	重複履修可 ^{*2}
English II (L&S)	2	1	半期		
English II (School English I)	2	1	前期	1科目1単位必修	
English II (School English II)	2	1	後期	1科目1単位必修	

※1 2科目2単位必修の内訳は、以下のいずれの組合せでも可

授業科目名	修得科目数		
	2	1	0
English II (R&W)	2	1	0
English II (L&S)	0	1	2

※2 同一の授業科目名であっても重複して履修することができる。

▼健康体育学科

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
First Year English I	1	1	前期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
First Year English II	1	1	後期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English I (R&W)	1	1	半期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English I (L&W)	1	1	半期	1科目1単位必修	習熟度別クラス
English II (R&W)	2	1	半期	2科目2単位必修 ^{*1}	重複履修可 ^{*2}
English II (L&S)	2	1	半期		
English II (Sports English I)	2	1	前期	1科目1単位必修	
English II (Sports English II)	2	1	後期	1科目1単位必修	

※1 2科目2単位必修の内訳は、以下のいずれの組合せでも可

授業科目名	修得科目数		
	2	1	0
English II (R&W)	2	1	0
English II (L&S)	0	1	2

※2 同一の授業科目名であっても重複して履修することができる。

5. スポーツ・身体文化科目

5-1. スポーツ・身体文化 IA・IB

人間の体や精神の仕組みを理解するとともに、健康の維持に対してスポーツの果たす役割を確認し、さらにスポーツ技能を高めていく実践等を通して、生涯にわたって健康的な生活を維持していくための基礎的な能力を身につける科目である。

1年次に修得できなかった場合は、2年次に再履修することとなる（履修方法は当該年度の指示に従うこと）。また、「スポーツ・身体文化 IA・IB」の中には、心身上の事由のため履修が困難と考えられる学生を対象とした「コントロールクラス」が設けられている。この「コントロールクラス」での履修に関しては、担当教員との面接の後、主治医及び大学保健室発行の診断書の提出が必要となる。詳しくは、スポーツ・身体文化 IA・IB の履修ガイダンス等での指示に従うこと。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法
スポーツ・身体文化 IA	1	1	前期	1科目1単位必修
スポーツ・身体文化 IB	1	1	後期	1科目1単位必修

5-2. スポーツ・身体文化 II

「スポーツ・身体文化 II」は、科学のおよび文化的側面から、スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心とを実践的に、より深く掘り下げることを目的とする選択科目である。2年次以降に履修することができ、1科目1単位の半期科目である。

なお、「スポーツ・身体文化 II」は同じ種目であっても複数受講できるが、卒業に要する単位に算入できるのは8科目8単位までとする。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法
スポーツ・身体文化 II※	2	1	半期	選択

※ スポーツ・身体文化 II は、「スポーツ・身体文化 II（テニス①）」「スポーツ・身体文化（弓道①）」のように（）内で種目が示される。

6. 導入科目

導入科目として本学の建学の精神及び大学での学修方法や生活指導上の基礎的事項について理解を深めることを第一の目的とし、半期2単位で開講される必修科目である。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
導入基礎演習	1	2	半期	1科目2単位必修	

【人間総合科目群】

個々のテーマに基づく授業で、考察する過程において、さまざまな学問の手法や思考形式を具体的に提供し、学生に多角的に考える視点と学問の方法を理解・体験させる科目である。

1. テーマ別講義科目

学際的な観点から個別的・具体的に諸問題を考える中で、「ものの見方・考え方」についての多様な視点を与え、さらに発想の転換の契機を与えることを目的とし、半期2単位で開講される。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
生活と文化 ^{※1}	1	2	半期	選択	() 内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可 ^{※2}
人間と社会	1	2	半期	選択	
心性と思想	1	2	半期	選択	
環境と技術	1	2	半期	選択	
法学（日本国憲法） ^{※3}	1	2	半期	選択	

※1 授業科目名の前に◇がつく「生活と文化」についても、テーマ別講義科目として教養総合科目の卒業要件26単位以上に算入することができる。

※2 テーマ別講義科目は「生活と文化（文化資源と知的財産）」「生活と文化（江戸時代の文化）」のように () 内でテーマが示される。

※3 教員免許状取得希望者は、「法学（日本国憲法）」が必修科目となるので、卒業までに必ず修得すること。

2. 総合講座科目

複数の教員が共通のテーマを設定し、学部・学科をこえた学際的なテーマについて、より総合的かつ深く学ぶことを目的に、半期2単位で開講される。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
総合講座	1	2	半期	1科目2単位必修 ^{※1}	() 内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可 ^{※2}

※1 「総合講座（集団宿泊研修）」が必修科目となるので、卒業までに必ず修得すること。それ以外は選択科目となる。

※2 総合講座科目は「総合講座（自分を守る－労働組合）」「総合講座（自然との共生①）」のように () 内でテーマが示される。

3. 教養総合演習科目

主体的な学びを通して課題発見力、問題解決力、プレゼンテーション力やコミュニケーションスキルを身につけることを目的に開設されたアクティブ・ラーニング型の授業である。大学での学びや、社会で活躍するための基礎的な能力を鍛えることができ、半期2単位で開講される。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
教養総合演習	1 ^{※1}	2	半期	選択	() 内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可 ^{※2・3}

※1 「教養総合演習」は、1・2年次のみ履修することができる。

※2 教養総合演習科目は「教養総合演習（学生主体型授業の冒険）」「教養総合演習（口頭による自己表現の技術）」のように () 内でテーマが示される。

※3 同一年度に、2科目4単位を超えて履修することはできない。また、卒業要件単位としての算入は3科目6単位までとなるので、履修にあたっては注意すること。

4. 情報処理科目

コンピュータ活用技術を身に付けることを目的とし、半期2単位で開講される。コンピュータの「方法とスキル」を修得することにより、基本的素養を身につけ、情報活用能力を自ら発展させることができるようにするものである。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
コンピュータ技術演習（活用入門）	1	2	半期	選択	初心者向け入門授業
コンピュータ技術演習（メディア発信）	1	2	半期	選択	プレゼンテーション、ホームページ作成
コンピュータ技術演習（データ処理）	1	2	半期	選択	Excelを用いたデータ処理、グラフ作成
コンピュータ技術演習（シミュレーション）	1	2	半期	選択	プログラミング、理論の視覚化技術

※ 「コンピュータ技術演習」は、教員免許状取得に必要な「情報機器の操作」として充当することができるため、教職希望者は必ず履修しなくてはならない。なお、（）内のテーマによらず、いずれの授業科目でも充当することができる。

※ 「コンピュータ技術演習（活用入門）」以外は、コンピュータの基礎的な利用法について授業時に扱わないので、履修にあたっては注意すること。

※ 同一年度に、2科目4単位を超えて履修することはできない。

※ コンピュータ教室では台数に限りがあるため、事前登録により受講者数の制限を行う。

5. キャリア形成支援科目

「生きること・働くこと」の意味、社会の変化と社会が求めている「人材」への理解、「自分発見」の重要性を学び、キャリア形成を考える際の問題提起をすることを目的とし、半期2単位で開講される。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
キャリアデザイン※ ¹	1	2	半期	選択	（）内のテーマが異なれば同一の授業科目名でも複数履修可※ ²
インターンシップⅠ	1※ ³	2	半期	選択	
インターンシップⅡ※ ⁴	2・3※ ³	2※ ⁵	半期	選択	

※¹ （）表記のない「キャリアデザイン」の履修は一度限りであり、単位修得の有無に関わらず二度目の履修をすることはできない。

※² 「キャリアデザイン」及び「インターンシップⅠ」は「キャリアデザイン（話す力・聞く力を伸ばす）」「インターンシップⅠ（教育・専門職）」のように（）内でテーマが示される。ただし、（）表記のない「キャリアデザイン」は※²のとおり履修に関する制限があるので、注意すること。

※³ 「インターンシップⅠ・Ⅱ」は、4年次に履修することができない。

※⁴ 「インターンシップⅡ」は、現場で実習する科目です。また、登録の手続きは、キャリアサポート課で行うため、詳細はキャリアサポート課で確認すること。

※⁵ 「インターンシップⅡ」は、年次別履修制限の単位外として扱われる。

6. 選択外国語科目

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語・スペイン語・ポルトガル語・イタリア語のうちより、各自が自由に選択して履修できる。科目とレベルは以下のとおりである。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	レベル※1
Basic English (英語リテラシー I) ※2	1	1	前期	義務	1年目
Basic English (英語リテラシー II) ※3	1	1	後期	選択	1年目
Advanced English※4	1	1	半期	選択	WEB シラバス参照
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語初級 I	1	1	前期	選択	1年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語初級 II	1	1	後期	選択	1年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語総合初級 I	1	1	前期	選択	1年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語総合初級 II	1	1	後期	選択	1年目
ドイツ語/フランス語/中国語入門	1	1	半期	選択	1年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語中級 I	1	1	前期	選択	2年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語中級 II	1	1	後期	選択	2年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語総合中級 I	1	1	前期	選択	2年目
ドイツ語/フランス語/中国語/韓国語総合中級 II	1	1	後期	選択	2年目
ドイツ語/フランス語/中国語上級 I	1	1	前期	選択	3年目
ドイツ語/フランス語/中国語上級 II	1	1	後期	選択	3年目
検定ドイツ語/フランス語/中国語※5	1	1	半期	選択	WEB シラバス参照
ロシア語/スペイン語/ポルトガル語/イタリア語初級 I	1	1	前期	選択	WEB シラバス参照
ロシア語/スペイン語/ポルトガル語/イタリア語初級 II	1	1	後期	選択	1年目
ロシア語/スペイン語/ポルトガル語/イタリア語中級 I	1	1	前期	選択	2年目
ロシア語/スペイン語/ポルトガル語/イタリア語中級 II	1	1	後期	選択	2年目

※1 選択外国語の履修にあたっては、WEB シラバス及びレベルを参照し、各自のレベルにあった内容の科目を選択すること。

※2 「Basic English (英語リテラシー I)」は、「入学時学力診断テスト (英語)」の得点が一定の基準に満たなかった学生に対し、1年次前期の履修が義務づけられる科目である。なお、義務履修科目とは、単位修得の必要はないが履修を義務付けられた科目である。また、義務履修に指定されなかった場合は、履修することができない。

※3 「Basic English (英語リテラシー II)」は、英語の初歩を学び直すクラスで、1年次後期のみ履修することができる。

※4 「Advanced English」の詳細は、▼「Advanced English」を参照のこと。

※5 「検定ドイツ語/フランス語/中国語」は、同一の授業科目名であっても重複して履修することはできるが、同一学期に登録できるのはそれぞれ1科目とする。

▼「Advanced English」※

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
Advanced English (検定英語)	1	1	半期	選択	担当者により難易度が異なるためWEBシラバス参照のこと
Advanced English (コミュニケーション)	1	1	半期	選択	英語でのコミュニケーション方法を学ぶクラス
Advanced English (日本文化)	1	1	前期	選択	日本文化・文学・歴史を英語で学ぶクラス
Advanced English (外国の文学)	1	1	半期	選択	外国の文学を英語で学ぶクラス
Advanced English (上級英語)	1	1	半期	選択	英語運用能力を高めるためのクラス

※ 「Advanced English」は、()内のテーマが同一の授業科目名であっても重複して履修することができる。ただし、「Advanced English (検定英語)」の登録については、同一学期に1科目までとする。

7. Japan Studies

「Japan Studies」は、各学部・学科の専門教育科目の修得をふまえ、学部・学科をこえた学際的なテーマについて、より総合的かつ深く学ぶことを目的に英語のみで授業が行われる科目である。

「Japan Studies」は、同一年度に2科目4単位まで重複して履修することができるが、卒業要件単位としての算入は4科目8単位までとなるので、履修にあたっては注意すること。

授業科目名	開講学年	単位数	開講	履修方法	備考
Japan Studies	2	2	半期	選択	

【単位認定科目】

留学・単位互換制度によって修得した単位、TOEIC・TOEFL等の検定試験において所定の成績を修めた場合について、以下のとおり単位認定を行う。

夏期・春期短期留学

留学先 ^{※1}	開講	認定科目名	単位数 ^{※2}
セントマイケルズ大学（米国）	春期	留学英語（セントマイケルズ大学）	2
復旦大学（中国）	春期	留学中国語（復旦大学）	2
マニトバ大学（カナダ）	夏期	留学英語（マニトバ大学）	2
モナシュ大学（オーストラリア）	夏期	留学英語（モナシュ大学）	2
南開大学（中国）	夏期	留学中国語（南開大学）	2
南台科技大学（台湾）	夏季	留学中国語（南台科技大学）	2
ヨーク・セント・ジョン大学（英国）	夏季	留学英語（ヨーク・セント・ジョン大学）	2
英語・中国語以外の留学先	—	留学外国語（留学先の大学名）	2

※1 平成25年度の留学先である。留学先は変更される可能性があるため、詳細は国際交流課で確認すること。

また、留学先が異なれば、短期留学には複数回参加できる。

※2 単位認定は、同一言語内において2科目4単位までとなるので注意すること。

単位互換制度

単位互換制度によって修得した単位は、12単位までを教養総合科目の卒業要件単位36単位以上のうちに算入することができる。なお、単位互換制度については、当該年度の時間割表で確認すること。

検定試験^{※1}

検定・資格試験	得点 ^{※2}	認定科目名 ^{※3}	単位数	評価
TOEIC	500～649点	英語検定試験（中級）	2	N（認定）
	650点以上	英語検定試験（上級）	2	N（認定）
TOEFL（iBT）	50～69点	英語検定試験（中級）	2	N（認定）
	70点以上	英語検定試験（上級）	2	N（認定）
TOEFL（ITP）	463～522点	英語検定試験（中級）	2	N（認定）
	523点以上	英語検定試験（上級）	2	N（認定）
実用英語技能検定	準1級以上	英語検定試験（上級）	2	N（認定）
ドイツ語検定	3級	ドイツ語検定試験（中級）	2	N（認定）
	2級以上	ドイツ語検定試験（上級）	2	N（認定）
フランス語検定	3級	フランス語検定試験（中級）	2	N（認定）
	2級以上	フランス語検定試験（上級）	2	N（認定）
中国語検定	3級	中国語検定試験（中級）	2	N（認定）
	2級以上	中国語検定試験（上級）	2	N（認定）
HSK	4級（180点以上）	中国語検定試験（中級）	2	N（認定）
	5級（180～194点）			
	5級（195点以上）	中国語検定試験（上級）	2	N（認定）
	6級（180点以上）			

※1 検定試験の単位認定を希望する学生は、履修登録期間に公式の認定証及び認定証のコピーを持参し、教務課で所定の手続きを行うこと。

※2 検定・資格試験の得点が「検定試験（上級）」の認定基準を満たしている場合、あわせて「検定試験（中級）」も認定する。

※3 同一の認定科目名で重複して単位認定を受けることはできない。